

国立大学法人小樽商科大学の平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

小樽商科大学は、国際的視野と専門知識及び豊かな教養と倫理観を備えた社会の指導的役割を果たす品格ある人材を育成するため、広い視野で社会の諸課題を発見し考察し解決策を構想する力の涵養を目指す実学教育を展開している。第2期中期目標期間においては、自立した高い研究能力を有する人材とともに、高度な専門的知識を有する職業人を育成すること等を目指している。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、グローバルな視野を備えた人材育成を推進するとともに、「アクティブラーニング対応教室」の整備等により実学教育を展開し、「開放型知的プラットフォーム」の構築により地域経済の活性化に貢献する取組を実施するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

2 項目別評価

・業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(組織運営の改善、 事務等の効率化・合理化)

平成24年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

「実学教育の推進」及び大学改革に向けた教育研究組織の在り方等の検討を進めるため、学長特別補佐（教育改革担当）を座長とした教育組織再編ワーキンググループを設置し新たな定員管理等について検討するとともに、事務局において、プロジェクトチーム制度を導入し、従来の課・室の縦割りによる弊害を排除し重点的な人員の配置を行える体制を整備するなど、学長の企画・立案に基づく重要な計画を推進する体制を強化している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、 経費の抑制、
資産の運用管理の改善)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 5 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(評価の充実、 情報公開や情報発信等の推進)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 7 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(施設設備の整備・活用等、 安全管理、 法令遵守)

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

「小樽市地域防災計画」に基づき、地域の避難所となっている屋内運動場に、大学用と小樽市用の防災倉庫や自家発電設備、非常用ボイラーを設置するなど、地域の拠点としての大学の役割を果たすための施設整備を行っている。

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

「小樽商科大学における学生の飲酒事故再発防止等に関する第三者委員会」を設置し、学生の飲酒事故の再発防止に向けて、学長・副学長による全サークル加入者を対象とした指導や授業での啓発活動の充実など、未成年の飲酒禁止に係る取組等が講じられているが、平成 25 年度においても未成年学生の飲酒事故があったことから、引き続き、再発防止に向けた組織的な取組を行うことが求められる。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 11 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

・教育研究等の質の向上の状況

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

「実学教育」の新たな展開として、タブレット型多機能端末等の ICT 機器を備えた「アクティブラーニング対応教室」を整備し、従来の講義のみの一方向の形式から講義、ケーススタディ及び課題を組み合わせた対話型・双方向形式による次世代型実学教育の教育方法を開発し、運用ノウハウの蓄積に取り組んでいる。

グローバルな視野を備えた人材育成を推進するため、海外の協定締結大学（オタゴ大学（ニュージーランド））と協力し、観光学の基礎とマーケティングを修得し、両国の観光親善に貢献することを目的としたプログラム等を整備している。

図書館による学習支援の新たな取組として、学生の資料収集能力向上を目指し、全国に先駆けて、図書館職員によるクラスライブラリアン（学年担当司書）制度を導入している。

地域ニーズ、地域連携実績等を調査・分析し、研究プロジェクトの立ち上げを行う「開放型知的プラットフォーム」を整備し、共同研究及び海外での北海道食品の味覚に関する調査事業を受託するなど、積極的な産学連携の取組を実施している。

地域インターンシップ型の正課授業である「地域連携キャリア開発」を開講し、自治体、企業等からの課題について、協働で課題解決策を検討し、具体的な事業の実践や報告会を通じて、地域活性化に資する教育成果の還元を行うなど、インターシップを通じたキャリア教育及び地域と連携した課題解決型学習の取組を行っている。

地域通貨に関する研究成果の活用及び小樽市の活性化を目指し、小樽市民、自治体職員、NPO 団体、民間企業等の地域住民が参加する「地域通貨勉強会」を開催し、本勉強会を基点として、地域通貨「TARCA（タルカ）」の実証実験を行っている。

経営系専門職大学院（アントレプレナーシップ専攻）において、地元企業の経営者を講師とした一般向けのフォーラムの開催や、地元企業と実践的マネジメントを身につける企業研修を共同企画・実施するなど、ビジネスノウハウを地域に還元することを目的とした取組を展開している。